



ロシアNIS経済速報

一般社団法人 ロシアNIS貿易会

2021年(令和3年)4月25日号 No.1857

目次

■ 2020年のロシア・NIS諸国の経済(下)	1
■ 新型コロナウイルス感染拡大に関するロシアの対応	10
■ 『ロシアNIS調査月報』2021年5月号のご紹介	20
■ トピックス	21
プーチン大統領、教書演説で追加支援策を発表／21	
IKEAがロシアの太陽光発電に投資／21	
NEXI、アゼルバイジャン経済省と覚書調印／22	
NIS諸国の新型コロナ関連ウイルス関連ニュース／22	

2020年のロシア・NIS諸国の経済(下)

はじめに

前回に引き続き、CIS統計委員会および各国統計局発表のデータ等に基づき、2020年の経済実績を中心にNIS諸国の最新の経済情勢についてのレビューを行う。

今回は、全13カ国の主要経済指標を表にまとめて掲載するとともに、ロシア・NIS全般、ロシア、ウクライナ、ベラルーシ、モルドバについての解説をお届けした。今号では中央アジア諸国(カザフスタン、キルギス、ウズベキスタン、トルクメニスタン、タジキスタン)、南コーカサス諸国(アゼルバイジャン、アルメニア、ジョージア)、モンゴルを扱う。

カザフスタン： 石油基金の恩恵で経済縮小は相対的に軽微

2020年3月のOPEC+交渉決裂に端を発する原油価格の急落と、ほぼ同時に始まったコロナ禍による資源需要の縮小により、石油依存度の極めて高いカザフスタン経済は深刻な打撃を被ることが予想された。実際、油価の影響で3月に為替レートはそれまでの1ドル=380テンゲ台から20日には過去最低の448.5テンゲまで一気に減価、その後も1ドル=420~430テンゲでの推移が続いている。2016年のカシャガン油田稼働再開以来、順調に拡大を続け、2019年には9,056万tと史上最高を記録した石油生産は8,566万tと前年比5.4%の減産に転じた。通常、石油が約6割を占める輸出は前年比19.1%減と大幅に縮小、貿易黒字は88.7億ドルと前年からほぼ半減した。その他、GDP前年比2.6%減、鉱工業生産0.7%減、固定資本投資3.4%減など、農業生産の5.6%増を除き、主要